ブータン

〈HUTAN〉
森の通信

一部 200円
年会費 2,000円
郵便振替 大阪3-3880

SAVE OUR TROPICAL FORESTS
森と生活を考える会
〒530/大阪市北区中崎西1-6-36 サクラビル新館#308
Tel. (06)372-1561「自然を返せ/関西市民連合」事務所気付

第19号
● 1991年 4月14日 発行

■ やさしいコンパネ講座 その④ 『コンパネって何?』
■ サラワク先住民再び来日! (3.27)
■ サラワク報告④ ロング・ガン村とロング・ナピール村
■ 〈大阪市議・府議への〉熱帯林アンケート中間報告
■ サラワク訪問記 『ウマ・バワン』(UMA BAWANG) 第3回
■ 第2回 大阪府への申し入れ 報告

・ブローパイプ(吹き矢)でのブタンのハンティング・

合言葉は、STOP・ザ・熱帯林破壊!!

熱帯木材不使用への行動を

事務局長　西岡　良夫

コンパネなど熱帯木材の大量消費は、膨大な熱帯林を破壊し、先住民の生活と文化を壊しています。

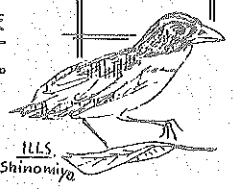
この三月に来日したカヤン族のジョクさん、ルンバワン族で弁護士のバルビアンさんは「我々の力だけではだめなのです。日本の皆さんも木材使用量の削減に努力して欲しい。森は殆ど無くなった。」と訴えています。

サラワクの森では九〇年、一五八〇㎥も伐採され、半分以上が日本へ運ばれています。昨年ITTO〔国際熱帯木材機構〕は、サラワク材の30％削減勧告を出したが、全く不充分なものです。今の伐採では十一年で原生林が無くなるのを、三、四年延ばしただけに過ぎません。現在もサラワクの奥地、例えばバラム川上流のロング・サン、ロング・レランなどで先住民は、伐採反対の抗議行動をしているのにもかかわらず、森の破壊が続いています。

WWFのギエルモ氏は「伐採の持続可能な状態は、現在伐採している量の85－88％も削減しなければならない」と、調査して警告しています。つまり、即時伐採中止、そして今熱帯木材の不使用が必要な状態となっています。

私達ウータンは、昨年より商社などに熱帯木材の輸入中止を申入れました。しかし、大幅な輸入削減は計画されていません。「ITTOの勧告に反して、逆に州は伐採の増量を計画しています」と、ジョクさんが指摘しています。

今出来ることは、各自治体で熱帯木材を使用させないようにすることです。私達の生活を見直すために、居住地の自治体に「熱帯木材不使用」を申入れることではないでしょうか。一人の時は、ウータンの「ハガキ行動」にご協力を！　皆で止めよう！熱帯林の破壊。



ウータン主な活動報告

90・12・13　大阪府、大阪市へ熱帯木材使用停止の申入れ。交渉

91・1・24　大阪府にコンパネや熱帯木材不使用への要請書提出。話合い

1・26　不連続学習会③――コンパネの浪費を問う――講演・猪俣栄一氏

2・3　サラワク報告会④――森の優しき人々――櫛田秀樹氏、奥村、西岡

2・16　JATANサラワク報告会参加

2・17　JEEのサラワク学習会に参加

2・22　AA連帯でサラワク報告会

2・28　NAWで熱帯林破壊の報告会

2・28　府知事候補、府議、大阪市議に熱帯林問題アンケート送付

3・21　ARE社＊企業責任と人の命を考える集会――大阪YWCAで

3・26　第一次熱帯林アンケート集約

3・28　JATAN、先住民と都議会の熱帯木材使用停止への交渉に参加

3・30－31　青年法律家協会の人権研究交流集会〔ODA等〕に参加

3・31　熱帯林と先住民を守るシンポ

本誌はすべて再生紙を使用しております。

『サラワク先住民再び来日！』

――何かが動き出した。――

辻村 方孝

3月27日、サラワクの先住民の代表2人が来日した。ウマバワン村民協議会議長のジョク ジョウ イボンさんと先住民出身の弁護士、バル ビエンさん。

ご存じの方も多いと思うが、ウマバワン村は、3年前の伐採道路封鎖で42人の逮捕者を出し、それ以来サラワクの熱帯林伐採反対運動の中心となってきた。そのリーダーがジョクさんである。バル ビエン弁護士は、逮捕者の弁護を引き受け、先住民の土地に対する慣習的な権利が守られるように訴えてきた。2人とも昨年の11月に続き、ジョクさんは3度目、バル ビエンさんは2度目の来日である。

28日は、朝から建築業協会（約80社で構成する建設会社の業界団体）を訪問。同協会では、内部に熱帯材削減ワーキングチームを作り、コンクリートパネルの使用実態に関するレポートをすでに建設省に提出、今後は代替品について検討していきたい。また個別企業としては、大林組などで、針葉樹合版への転換に取り組んでいるとのことであった。次に、新しく新宿に移った東京都庁で、環境保全局長と会見。この夏か遅くても秋には、熱帯木材の具体的な削減案を出したいとの解答を得た。その夜は、カンダパンセホールで2人を迎えて集会が行われたが、約150人が集まる盛会だった。この他、ラジオやテレビに出演したり、国会議員や弁護士と会ったりしたあと、埼玉県大宮市で開かれた青年法律家協会主催の人権研究集会に参加して2人の日本滞在のスケジュールは終了した。

ジョクさんに今回の日本滞在の感想をきいてみた。

「これまで2回の滞在のときは、いくら話をしても誰もサラワクの問題を知らなかった。しかし、今回はみんなが知っていて、協力を約束してくれる。ゆっくりとだが、何かが動きだしたように思う。」

彼らと行動をともにして、私も同様のことを感じた。しかし、サラワクの現状はまだまだ厳しい。動き出した流れをさらに加速するためにも、大阪でも一丁頑張ろうと思いながら帰ってきたのだった。

▲ 東京都庁前での「熱帯木材不使用」のデモンストレーション。
（左から、筆者・辻村、ジョクさん、黒田さん（JATAN）、バル・ビエンさん）

HUTAN NEWS

(平成3年)3月9日 土曜日 朝日新聞

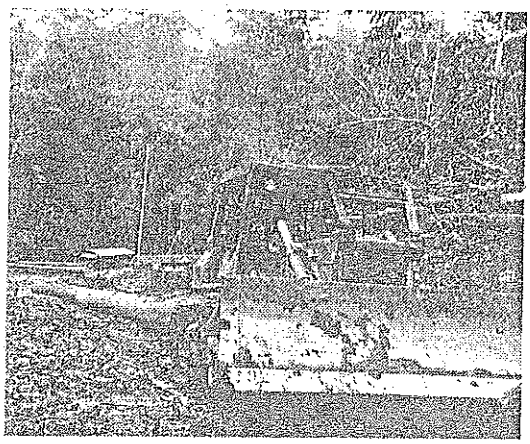
地球環境保護へスクラム

熱帯原木15%減へ

丸紅など合意 直径45センチ以上に限定

輸入量 サラワク州

丸紅、伊藤忠商事など日本の木材輸入商社が、地球環境保護の観点から、熱帯林の主要供給地のマレーシア・サラワク州からの輸入削減を検討していたが、同州との間で、原木（丸太）の同地区からの総輸出量を九一年は当初計画数量より約一五％（百五十万―二百万立方㍍）削減することで正式に合意した。業界筋が八日明らかにしたもので、輸入業者と生産地が環境保護を理由にこうした合意に踏み切ったのは世界でも初めて。



マレーシア・サラワク州の熱帯林の伐採現場。環境保護運動の盛り上がりを受け、同州の輸出量は15%削減される

合意によると、①サラワク州は、今年の原木の総輸出量を当初計画の一千四百万立方㍍から一千二百五十万―一千二百万立方㍍に削減する②うち約半分を引き取っている日本も輸入量を同程度の比率で削減する③森林保護のために日本が輸入する原木は湿地など特定地域産のものを除き、一定の太さ（胸の高さで直径四十五㌢）以上に限定する④今後の輸出量は年二回の双方の会談で話し合う、など。

会談は今月四日、同州のクチン市で開かれた。日本からは松木俊弘・日本木材輸入協会長（伊藤忠常務）ら各商社の二十五人、マレーシア側からはラオ・フィー・カン・サラワク木材協会長ら三十人が出席した。

同協会によると、現在、南洋材の主要供給地はマレーシアで、世界の原木の貿易量全体の九割強を供給している。日本の南洋材（熱帯林）の原木の輸入量は九〇年に一千十万立方㍍で、うち九割強をマレーシアのサラワク州とサバ州に頼っている。

3月12日 朝日新聞

針葉樹合板に転換

大型枠用で 林組 南洋材保護に配慮

大林組は建設現場などで大量に使用されているコンクリート型枠用合板を、南洋材だけを使ったものから、針葉樹合板を主材料としたものに徐々に切り替える。都内のビル建築現場で試験的に使用開始した。今後、東京、大阪の建築、土木現場で使用していく。全面的に切り替えるのは合板メーカーの生産態勢が整わないため難しいが、南洋材の過剰伐採が問題になっている折から、資源保護を配慮した。建設業界で合板の原料転換に取り組むのは初めて。

大林組が使う合板は、針葉樹芯三枚張の合わせ、裏面に南洋材の広葉樹板を張り、はぎむ形。合板メーカーの林ベニヤ産業（本社大阪市、社長林一雄氏）が生産している。裏面に広葉樹を使うのは、針葉樹と木の節の跡がコンクリートに付いてしまうほか、ヤニが出て、コンクリートの仕上がりを悪くするため。

この合板を現在、東京・秋葉原のビル工事で三×六尺と二×六尺サイズそれぞれ三百枚ずつ計六百枚使っている。今後、東京の建築、土木工事で三千枚程度、大阪で三千枚程度使っていく。合計使用量は二万枚程度になる。他の工事にも拡大して、今年中には同社の年間使用量百六十万枚の二、三％に当たる三万―五万枚程度に増やす。

秋葉原の現場では型枠用として二回使用し、通常使用回数の三回に耐えられることが実証できた。型枠大工などの評判も悪くないという。

◎ こうした動きに みんなの力で加速を つけましょう！

南洋材、5年で3割減

合板メーカー 針葉樹に切り替え

2月19日 朝日新聞

地球環境破壊のひとつといわれる熱帯林の伐採問題で、商社が南洋材の原木（丸太）輸入量を、ここしから二〇―二五％削減するのを受け、国内の合板メーカー約百社で作る日本合板工業組合連合会（今野善悦会長）は、合板の原料の九五％を南洋材（広葉樹）に頼っていたが、五年後をめどに、針葉樹を増やし、広葉樹の比率を七五―七〇％に落とす方針を決めた。五月末の総会に具体的なスケジュールを発表する。現在、南洋材の使途の約九割が合板原料のため、合板業界の原料転換は、日本の南洋材輸入に大きくブレーキをかけることになりそうだ。

今回の同連合会の決定は①ソ連、北米、ニュージーランド、国産のマツなど針葉樹への依存率を、現在の五％から、三年後に一〇―二〇％、五年後に二五―三〇％に高めていく②南洋材合板より割高な針葉樹合板の利用促進を図るため「地球にやさしい合板」として売り出す③その他の利用促進策の実施を農林水産省などに働きかける――など。

同連合会によると、日本の南洋材（原木）の輸入量は一千百十万立方㍍（九〇年実績見込み）で、うち合板業界が年間に約九百五十万立方㍍を消費している。同連合会の方針通り、五年後に合板業界の全消費量（約一千万立方㍍）の三〇％が針葉樹に転換されれば、南洋材の全輸入量は現在より二三％程度縮小されることになる。

木材関連業界に新しい動き

●右の新聞記事にあるように、この二月から三月にかけて商社、合板メーカー、建設会社があいついで南洋材の輸入及び使用削減の方針を発表した。日本の熱帯林破壊に内外から批判が集中する中で、企業もなんらかの対策を打ち出さざるを得なくなったようだ。しかし、これらの熱帯木材削減案は、サラワクの熱帯林を守り持続的な森林開発を進めるにはまだまだ不十分。（ITTOでさえ三〇％の削減を勧告している）また、各企業が本当にやる気があるのか、それとも単なるポーズなのか、そして実際に効果的な削減が出来るのかどうか今後注意深く監視していく必要がある。ともかく、企業がこのような前向きの姿勢を示しだしたのは歓迎すべきことで、この動きを加速するためにも全国的な運動を盛り上げていくことが重要だ。

三井マリ子さん 都議会で質問

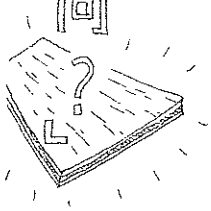
●二月十四日、東京都議会の一般質問で、社会党 都民会議の三井マリ子議員は、熱帯林保護の点から問題になっているコンクリートパネルの使用について質問。財務局長は、新都庁舎の建設で延べ四十四万平方メートルのコンパネを使ったことを明らかにした。三井議員は「都の工事で熱帯材コンパネの不使用を打ち出せと追求。同局長は「今後代替材の研究を進めるとともに、出来るかぎり使用量を減らす」と答えた。（二月十五日 朝日新聞東京版）

●今後、コンパネに関する記事はできるだけ載せていくつもりでおりますが、早くお知りになりたい方は、ウータンにいくつかの資料がありますのでご連絡下さい。 辻村まで（06-792-5232）

「カリフォルニア州・サタモニカ市条例'90.10.23）」、「建築土木工事用コンクリートパネル」（情報連絡'90.11）、「コンクリート型枠合板に対する大林組の取組」（'91.2）他。

◎やさしいコンパネ講座◎ 第1回

『コンパネって何？』



前回、今回の通信でお知らせしているように、全国各地で自治体キャンペーンに取り組もうという動きが起こってきました。自治体キャンペーンは、地元の自治体に対して「公共事業で熱帯木材を使わない」「熱帯木材不使用条例を作る」ことなどを働きかけていくもので、そのおもなターゲットはコンクリートパネル（コンパネ）です。コンパネと聞いてすぐにあれかと思い浮かぶ人は少ないと思いますが、コンクリートを注ぎ込み固めるために使われる木製の型枠のことで、ビルや道路の建設工事に広く使われています。そのほとんどが、マレーシアのサバ州、サラワク州から輸入される木材から作られたものか、最近増えているインドネシアからの輸入合板です。サラワク州についていえば、日本向けに輸出される木材の約三分の一がコンパネに加工されています。そしてコンパネは、だいたい2－3回で使い捨てになっているのです。したがって、コンパネの使用をやめる、あるいは大幅に使用量を減らせば、東南アジアの熱帯林破壊を止める大きな力になります。ウータンでも自治体キャンペーンに全力をあげて取り組むつもりですが、まず必要なのは基礎知識。そこで今回から何回かにわたって、コンパネについての基礎知識を、判りやすい形で掲載していきます。今回は、一般の人にはあまりなじみのないコンパネとはどういうものかについて書いてみました。

コンパネは合板（いわゆるベニヤ板）の一種です。合板には、薄物（三ミリ以下）中厚物（三－六ミリ）厚物（六ミリ以上）の区別があります。コンパネは厚物のうち一二ミリ以上の厚さのもので、通常は厚さ一二ミリで三尺×六尺（九〇×一八〇センチ）と四尺×八尺（一二〇×二四センチ）のものが使用されています。コンパネが本格的に登場したのは１９６０年代。１９６５年ごろにコンパネを使用した合板型枠工法が確立され、東京オリンピック、大阪万国博と続く建設ブームの中でこの工法が普及し、型枠工事のほとんどを占めるようになりました。この時コンパネに使用されたのは、フィリピン産のラワン材。日本では、コンクリートの表面をそのまま外壁にする打放し工法が一般的で、コンパネの表面は滑らかであることが要求されます。熱帯産のラワン材は、木目もなく節も少ないという点で条件をみたしているうえに、値段も安かったのでコンパネには最適でした。こうして高度経済成長と軌跡をあわせるように、コンパネ用のラワン材を得るためフィリピン、インドネシア、サバ、サラワクの順で、日本は東南アジアの熱帯林を破壊してきました。

コンパネは現在でも多くの建設現場で好んで使われていますが、その理由は次のとおりです。

1、切ったり貼ったりが簡単

土地が狭く高価な日本の都会でビルを建設する場合、煩雑な法規をクリアーしてスペースを有効利用しようとするとビルの形が不整形になります。この場合切り貼りが簡単なコンパネが使われることになります。

2、よくしなる、軽い

最近は、曲線や凹凸を取り入れた建物が好れるようになっているが、このような施工にもよくしなるコンパネが適しています。また、軽いので作業が簡単です。

3、値段が安い

先にも述べたとおり、コンパネは平均2ー3回の使用で使い捨てにされています。これは、小さい部分にコンクリートを打つために小さく切っていくこと、水がしみて弱くなること、コンパネの表面にコンクリートのかすがこびりつくことなどが原因です。コンクリートかすの付着の場合こそぎ落せばまた使えるのですが、人件費をかけて何回も使うよりも、使い捨てにした方が割にあうわけです。

ただ、最近では、木材資源の枯渇や、環境問題への関心の高まり、深刻な人手不足と人件費の高騰といった状況の中で、合板メーカーや建設会社の側からも、コンパネを別のものに替えていこうという動きがでてきています。代替品としては、以下のものがおもに考えられています。

1　スチール型枠　三〇ー五〇回使用できる。重い。価格が高い。

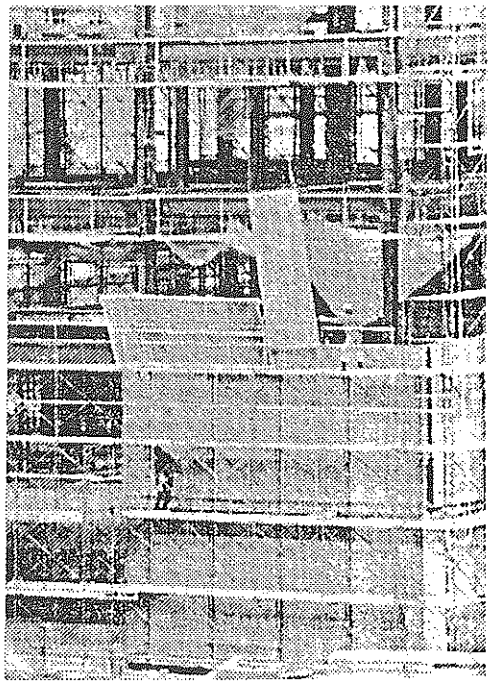
2　アルミニウム型枠　軽い。耐久性がある。スチールより更に価格が高い。

3　プレキャスト工法　あらかじめ工場でコンクリート板を作り、現場で組立る。画一的な建物に使用。

4　塗装合板　合板の表面に樹脂加工したもの。15回くらい使用できる。

5　針葉樹合板　ヤニなどを防ぐために表面はラワン材使用。ラワン材は全体の25％。

4、5については、熱帯材の使用量は減っても、資源の浪費の問題は残るといった具合にそれぞれ一長一短あって、これが決定版というものはまだありません。しかし、今後放っておいてもコンパネを使わない工法に切り替わっていくだろうというのが専門家の見方です。ただ、熱帯林の破壊を一日も早く止めるために、その動きを加速させる必要があります。



ビル建設現場で、鉄骨に次々と張られていくコンパネ。平均3、4回で使えなくなるという
＝神戸市中央区のポートアイランドで
（'87.5.9 朝日）

大阪府申し入れ（第2回）91．1．25
――申し入れから学習会へ――

文責・篠宮

「熱帯林なんて、切ってもすぐ生えて来るモノと思ってた」

大阪府土木部・池田さんがざっくばらんに話しはじめた。それまでの責任追求的な質問を遮り、大西弁護士が『懇談会』であることを皆に確認すると、その場は徐々に穏やかになった。それからの事だ。池田さんはウータンからの申し入れを受けてから、地図を広げ勉強を始めたという。現場からのたたきあげの彼にとって、ウータンからの（コンパネ不使用の）要求は、想像を越えた世界の発想だったのだろう。長年仕事で使っていたコンパネと、きのう地図を広げるまで知らなかったサラワクの森の樹を、どうつなげてよいものか、戸惑いを隠せない。

建築管理の米さんは、設計の段階でのコンパネ不使用のできるできないを、代替品も含めて具体的に説明してくれた。丁寧な説明は、市民の声を聞こうという前向きな姿勢からのように思えた。現場で使われているコンパネはボロボロになって穴があいてしまうモノや持ち帰って再利用もする。予算的な事もあるのだろう、こちらの想像以上にリサイクルされている話しであった。

それでも更なるリサイクルは考えられないのか。そして何より先ず、こんなに建物を壊しては建て、を繰り返す意味があるのだろうか。

サラワクの先住民の追い詰められた生活を、私たちは話す。ラワンの樹が400年以上も生きているといわれている事を、その400という年月を私達は想ってみる。そこで生きているとり・むし・さかな・けものたちの事も。

文明の巨大化と共に、想像力の及ばない「モノ」に囲まれて生活する日本人。その管理者たる公僕「公務員」たち。只の「市民」の「無知」も無罪ではいられない地球の破壊のスピード。「知らないことは罪悪である」とは誰が言った台詞だったか。

知らないと言う罪を責めるのは楽だ。しかしその出会いは何も生まない。池田さんの素直な言葉を「知る」ということにつなげることこそ、何かを生む力となるに違いない。

（ウータン側の今回の参加・大西・辻村・永田・西岡・篠宮）

熱帯林アンケート中間報告

今年3月の上旬、大阪府・市の議員合わせて203名に、熱帯林問題についてのアンケートを送付しました。返却期限を一応3／10迄とし、26日現在24通の回答がありました。

質問内容は8項目。熱帯林保護の問題意識への問い掛けやコンパネの事、政治問題として何処まで取り組むつもりかなど。

24名共、何らかの形で熱帯林保護にはYESとの事。コンパネについても22名が「考え直す必要がある」に○と答え、具体的な方法としては「代替品」が人気？（17名）でした。世界各国の『熱帯林不使用条例』については、知っている10名・知らなかった11名。自らの自治体でも使用削減に取り組むかどうかは「必要」9名「難しい」9名。自身の政治活動で地球環境問題に取り組む意志は、ある・20名、ないは0名、考えていない1名。他1名。NGOからの協力を「望んでいる」16名「いない」が0名「何ともいえない」が3名。

回答を寄せてくれた方々は概ね、問題になってもいるし何かしなくてはとも思うものの、実際問題どう取り組めば・・・といった所でしょうか。しかし回答率が1割程度とは、大阪も情けない。より市民に近い自治体こそフットワークの軽さで取り組んで欲しいものです。以下、意見からの抜粋です。

♪狭い地球に生きている私達はあまりどんどんよくならないでみんなで分ち合っていきたいですね（市会・自民党）♪自分で箸を鞄の中にいれてあります（無記名）♪商社が木を買った後始末を只金を渡すだけで実行段階の点検のない事が一番いけないと思う（市議・自民党）♪先進国の論理を押し付けるのではなく現地国の住民の生活を十分に尊重し総合的な対策を立てる必要がある（府会・公明党）♪使い捨ては美徳の生活を変える事（中略）根本的な問題の解決でなければ枝葉問題では焦点がぼけてしまう（無記名）♪市会本会議において地球環境回復の為に代表質問の中で述べました（原稿添付）（市会・社会党）♪勉強不足で申し訳ありません。また資料等ありましたら送って下さい（府会・自民党）・・・送らさせていただきます。皆さんどうも有り難うございました。

（もう少し待って、しっかりした集計を出します。篠宮）

※ 紙面の都合で読みにくくなりました。すいません。

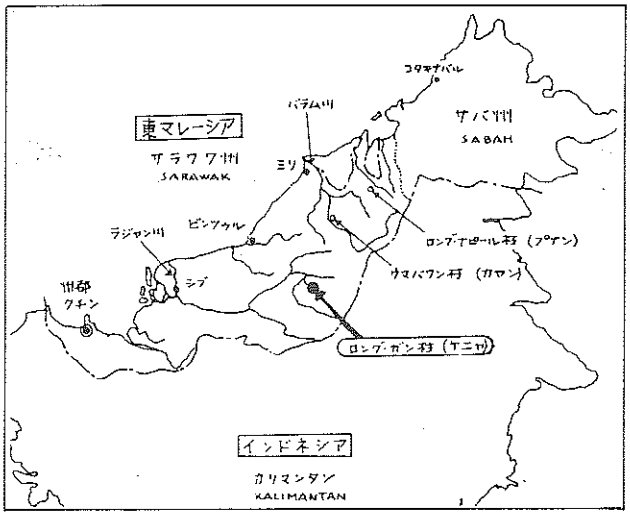
サラワク報告・PART④ '90〜'91

2月同例会「森のやさしさん夕」大阪市中央青年センターにて。

●森林伐採と闘う村——①
「ブラガ県」ロング・ガン村（ケニヤ族）

報告 樫田秀樹（フリーライター）

2月3日に東京より樫田さんを招いて報告会を催しました。樫田さんは'85年から'87年の約2年間をJVC（日本ボランティアセンター）のソマリアプロジェクトに参加。'89年5月に初めてサラワクに入ったのを機にサラワクに魅せられ以後現在までに6度をかぞえる。各地の先住民村を訪れ、伐採による生活などを日本に訴えている。31才。今回は'90年10月下旬〜11月下旬にサラワク入りした時の報告である。



ロング・ガン概略

ブラガ県、サラワク州最大の川ラジャン川を遡上すること（シブから）3時間余り、支流のリナウ川、さらにその支流のクルアン川に面している。

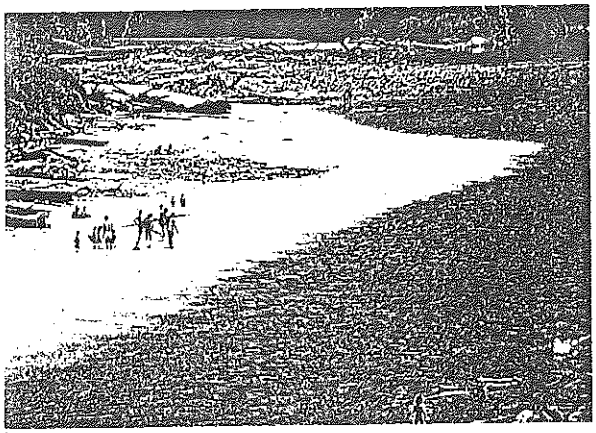
50年くらい前までは上流に村があったが、そこが国立公園に指定されたため今の場所に定住した。人口約1000人（ウマバワンの2倍）村は川の両岸に分かれている。上流に向かった時、右手側が人口の約50%を占めるプロテスタント系クリスチャンの居住区、左手側が30%を占める「ブンガン」と呼ばれる精霊信仰を持つ原始宗教と残り20%のカソリック系クリスチャンの居住区となっている。両岸は一本の高く長い吊り橋で結ばれている。上流の若干標高の高い所に位置しているためか、暑さはそうきびしくない。

ここはこの地域では最奥の村だが、もっと上流にはプナン人の定住地域もあるという。

ここには小学校、教会の他クリニックもある。小学校、教会を除いてはこの村には電気というものがない。もちろんテレビといった娯楽は一切ない。

あえて娯楽といえば若者たちは毎日サッカーを楽しんでいる。この村にはサッカーチームが7つもある。

つまり少なくとも約100人の若者がこの村にいるこ



◀二つの川の合流するところでは、伐採が行われている支流から大量のドロ水が流れてくる。そのため、川はこのようにくっきりと2色に分かれてしまった。

（photo：樫田）

とになる。　この村ではまだ若者の村離れが起っていない。それどころか、多くの若者がたいていは町で働いた経験を持っているのだが、町の生活に嫌気がさして戻ってきている。

ブロッケードと逮捕

ロング・ガンでは88年に伐採が始まった。「ウマス」「サムリン・ティンバー」「ジュン・チン・ロギング」の3社が操業している。当然のように川は汚され、伐採地周辺では魚はいなくなった。動物も少なくなっている。　操業開始時に会社側は、補償金として、25マレーシア・ドル（約1,300円）を1人ずつに支払ったという。子供扱いにしても、あまりに荒唐無稽といわねばならない。　道路封鎖が始まったのは89年10月からで4つのグループ（若者G、中年G、壮年G、女性G）が交代でバリケードを守っていた。　7月23日道路封鎖に388人参加、うち女性を含む100人ブラガへ運行され、リーダー格88名逮捕、10日間拘留。翌月8月18日、若者グループの14名逮捕、ブラガでの裁判で謹慎処分の誓約書にサインすることを拒否したためシブ中央刑務所へ14名全員送られる。　9月8日釈放。

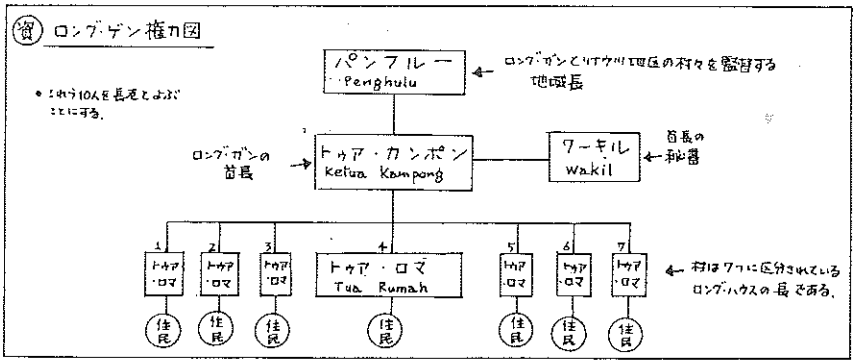
2人のリーダーと新長老選挙

この村には、ウマバワンのジョック氏のようなリーダーが2人いた。　名はガラ・ジャロン（40代後半）、彼が道路封鎖の実質的リーダーで一度目に逮捕された8名の中の1人である。　もう1人、名はジェームス。　体重は90kgはある巨体の持主で90年9月までロング・ガンで起こる全ての事件をブラガの区役所に報告する警察代行のような仕事をしていたが、仕事に疑問を感じて退職した。　この2人のリーダーを中心にして90年11月16日に「新長老」を決める選挙が行われた。　さてこの村は「サラワクの先住民」（プリンボン著）にバワン・ダム建設に反対する村として紹介（P252）された村で、首長の下、住民が力強く闘った結果大型ダム建設は撤回された。　しかし現在、首長ら長老10人全員（左図←）は木材会社から賄賂をもらっているのです。　しかも、1ヶ月300マレーシア・ドル（約15,000円）というはした金だ。　これだけの金のために1000人もの住民を裏ぎった。

ガラは言った。「私たちはもはやこんな長老連中はいらない。選挙は5年ごとに行われているが今年の選挙の違うのは、この10人を無視してやることだ。パンフルーだけは政府任命だからどうしようもないが、残り9人は私たち伐採に反対する者が選ぶ。　一応、選んだ新長老は政府の是認が必要だが認められなくてもかまわない。　これは私たちの村だけの為にやるのではない。　前例を作って、ブラガ県の村々に新しい風いを広めたいんだ。」ここにもジョックのような男がいた。

（END）

資 ロング・ゲン権力図



●森林伐採と闘う村――②

〈リンバン県〉ロングナピール（ケラビット族）

LIMBANG・Long Napia（P9 地図参照）

『森の優しき人々』

伝統的なドラ

報告

奥村知亜子（ウータン）
Chiako Okumura

'90年12月20日～'91年1月2日

森がざわざわ鳴っている。人をまるごと呑みこんで高笑いする鬼でもいるようで、夜の森は不気味だ。森の斜面を削り取って造られた伐採道路を、やたらとはしゃぎまわる私達を乗せて、ランドクルーザーはロングナピールへと走っていく。

昨年のクリスマス。サラワク州北部のリンバンから車で四時間ほど揺られて、ケラビット族らの住む村を訪れた。私にとっては初めてのサラワク。今まで一度もキャンプや川での水浴びさえしたこともなかったので、他の人に負担をかけないかと案じていたが、村の人々に暖かく迎えられて、その不安もどこかへ飛んでいった。

伐採で動物が減り、獲物による現金収入がほとんど無くなったので、人々は町に出て働くようになった。クリスマスはそうした人達が町から帰り、村が活気に溢れる待ちに待った日となる。ロングナピールのキリスト教徒には厳しい戒律があるそうだが、人々は村をあげてこの祭を楽しむ。

朝は八時頃より、バレーボール大会やラタンボール蹴りが始まる。吹矢や、砲丸投げ、川泳ぎといった数々の催しが続けられる。この日は、JATANのある女性メンバーとケラビット族の男性との結婚式が予定されていた。式のために野豚を三十頭ばかり絞めたそうで、その野豚の持ち上げ大会まで行われた。私はというと、炎天下でのバレーボールに参加し、水浴びをしたら、すっかり疲れて、ロングハウスの二階で風に当りへたばってしまうという始末だったが…。

村中の人々がこのスポーツ・フェスティバルに遊び興じている。彼等はみな明るく優しい。日本やオーストラリアからの訪問者に、ヤマアラシや野豚、鹿といったもう数少なくなった獲物をふるまって暖かくもてなしてくれる。

四時半から結婚パーティが始まるというので、広間に待つ。けれども、そこに集まったのは私達だけ。いくら待っても式の準備さえ始まらない。そこへあわただしく花嫁がやって来た。彼女はロングのTシャツを着たままである。

「まだ司会の友人が、外でバレーボールに熱中してるのよ。花婿の彼は引出物をだれに渡すのか、あれこれ迷っているし。時間の感覚が違うのよ。もう少しここで待っていてネ。」

そうこうしていると、いつの間にやら広間に人々が集まり楽しげに音楽が始まった。みんな身体をゆすり歌い始めた。やっと司会が現われて、二人の登場となったのだ。

二人は大きなドラの上に座った。ケラビット族の伝統的な衣装を身にまとい、はにかんで儀式の杯をかわす。式は神父の励

ましや、親族の言葉に、歌あり、踊りあり、ゲームありで賑やかに盛り上がっている。ふるまわれた豚をみんながたらふく食べ、豚の脂身早食い競争という珍ゲームに腹をかかえて笑った。

夜も三時を廻る頃には、三百ほどいた人々もいつの間にかどこへやら消えている。禁じられている酒でも飲もうと私達も車座になっていた。始まりも終わりもこれといった合図は無い。そこにいる人々が充分食べ終わるまで待って、次ぎの催しを始めるというおおらかさ。　誰も急かされることが無い。時間に追われることがあたり前の日本の暮らしがばからしく思えてしまう。皆が打ちとけ合い楽しむ素晴らしい「時」だった。

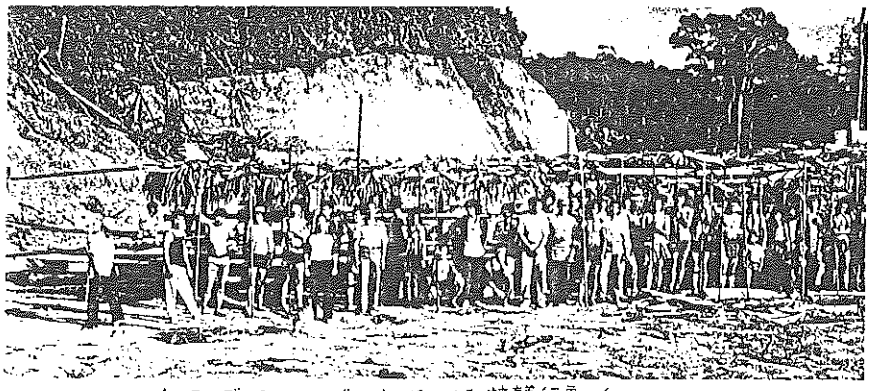
人が町に出、村が近代化して伝統が失われつつある中で、二人は伝統にのっとった式を選んだ。伐採は食糧ばかりか、村の伝統や共同体の絆までも奪っているのだ。森や村を守り続けようという彼等の思いが、この伝統的な式に託されている。

「物質的には恵まれてないかもしれませんが、精神的に満たされた暮らしが出来ると信じています。」彼女が嫁ぐ時の言葉だ。「流れついた一葉」という意のケラビット名をもらった彼女。流れに翻弄されることもあろうけど、人にとっての本当の幸せを決して見失うことはないだろう。

式で司会をしたアンディ・ムタンは一九八七年の大がかりな道路封鎖に加わった若い活動家だ。リンバンからロング・ナピールに向かうこの道路や橋は、伊藤忠商事が二億円のＯＤＡ資金をＪＩＣＡ（国際協力事業団）から融資されて造ったものだ。これらはここの村人の「公共の福祉のため」といって造られたのだが、全くのごまかしである。道路は伐採の手を奥へ奥へと進めているのだ。ますます多くの原木が日本へと輸入され続けている。森は壊されて、人々の暮らしや文化は危機的な状態だ。ムタンは私達に切々と訴えた。

「商社や政府は、これ以上の木材を輸入しないで欲しい。」

彼等の生活の犠牲の上に成り立つ日本の消費生活。この生活に流されず、自分の暮らしを問い直しつつ、熱帯林伐採中止のために活動したいと思う。森の人々のように優しく暖かな人生を送るために。



▲ ロング・ナピールの ブロッケードによる抗議行動。（ほがらかんと熱帯林より）

マレーシア サラワク発

サヨッナラ!

いい顔「カヤン語」

• 1990.8.15～25
• 熱帯林伐採と闘う先住民"カヤン族"のウマバマン村を訪ねて

第③回. もうすこし この訪問記はつづきます。がまんして ごらん下さいませ……

文とイラスト 永田健一(ウータン)

• 早いもんで、私がウマバワンから帰ってきまして半年以上が過ぎてしまいました。しかし私の頭の中にはウマバワン村の風景と村の人たちの温かい心が今なお、あざやかに残っているのです。 これは決して私だけでなくサラワク入りしたほとんどの人に共通することでしょう。 この間世界は戦争などで大変でしたがウマバワンでは いつもと変らない日々が過ぎていったことと思います。

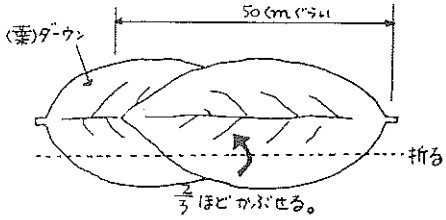
8/21 ㊋ 「ラポ(小屋)作り」

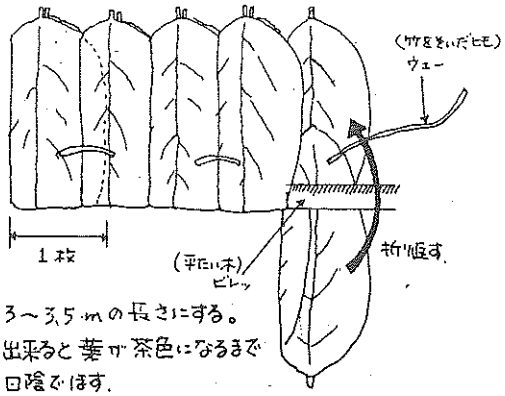
火入れが終っても村人たちは休む間もなく多くの仕事が待っている。 朝7:00前、ルイスやガウらは新しいジャバン(便所)や水くみ場を作っている。 他の村人もルーマ・マリョン(新しい農場)にラポ(小屋)を作り始めている。小さいものなら約3日間で出来上るようです。

• 伝統的な •

ハポ ミンブ の作り方

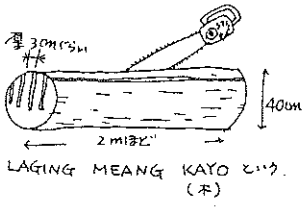
(屋根材)



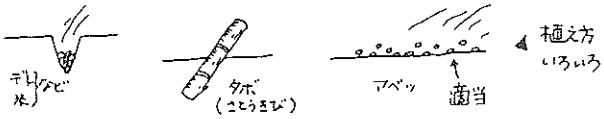


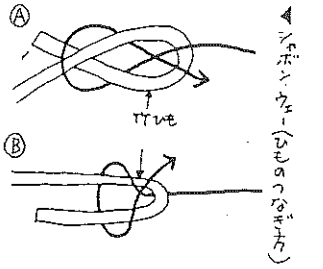
• 3～3.5mの長さにする。出来ると葉が茶色になるまで日陰でほす。

ルイスは丸太をロングバーのチェンソーで見事に板にしていく。ガウ・アニィはラポの増築をしている。 とにかく近代的な道具などないところで作るのだが、ほとんどマラッ(なた)でやってしまう。 知恵と努力のたまものである。

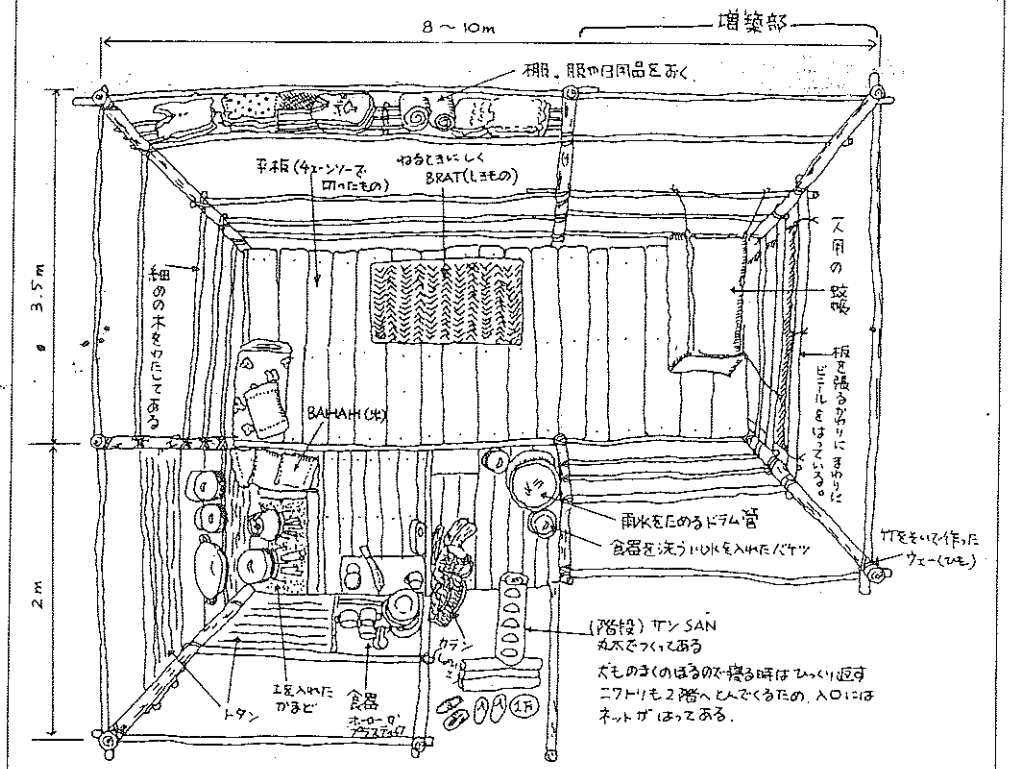


そうしたラポ作りと平行して行なわれるのがヌガンである。各農場を回ってみると、もうヌガンが行なわれており、「アベッ、デレ(とうもろこし)、タボ(さとうきび)、ナヤン(かぼちゃ)、オク、ワンバコワン、ブラタッ、バタッ プーラン、タビ(これらは一対何だろう)などが植えられる。 もちろん陸稲が中心ではあるが……。





私が泊ったルイスのラポ



● 先住民たちの住むラポは全て高床式で地面から2mは上げて作られている。
下にはニワトリ、犬が放してあり、食事の残りにありつく。
屋根は、雨水をためるのに必要なトタンを一方に、もう一方はダーウン(葉)で作った屋根(ハボシップ)が張ってある。

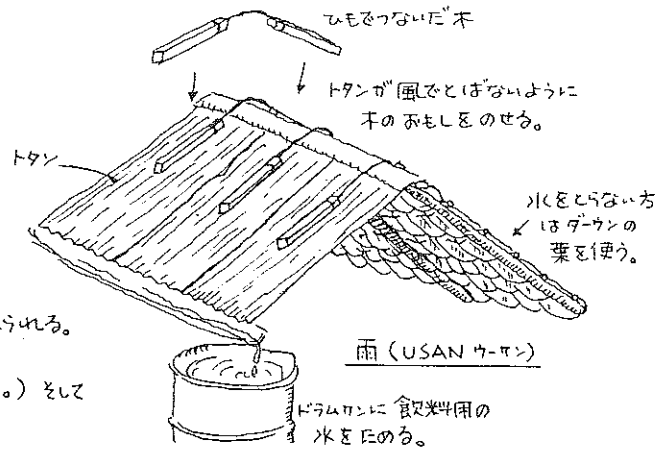
UMA・BAWANG

ワンポイント カヤン語

1 GI (ジ)
2 DUA (ルア)
3 TELO (テロ)
4 PAT (パット)
5 LIMA (リマ)
6 NAM (ナム)
7 TUSU (トゥス)
8 SAYA (サヤ)
9 PIPAN (ピーパン)
10 PULU (プール)

※ 子供たちにおしえてもらった。

● 一般的な屋根のようす。



● ウマバワンへ行くと必らずよく食べさせられる。
その時には……
カジョーラン(とてもおいしいです。)そして
必らず バソッ といいましょう。
これは(もう腹いっぱい)という意味です。そうしないと非礼ですよ!

去年の畑をみて思うが これらの方法では、かなり効率が悪くどう見ても自給自足が精一杯である感がぬぐえず、プロジェクトの中心にはなりえないと思う。
換金作物とするには、輸送・販売の問題をはぶいたとしてもかなりの改良と技術の導入が必要であろう。
ひとつおもしろいことがある。 この時期、畑でヌガンをしている時、焼けこげた木の炭を手にいっぱいつけて、人の顔にその手をなすりつけ大笑いしている光景をよく見かけることだ。
自然と笑顔になる。 そろそろ同じ家の飯にあきてきた私は今夜はよその家庭へ訪問をかねて晩飯をごちそうになろうと少々早く家を出る。
行ったのはアジャン宅で(ここには大野オボンさんがステイしていた)カラッとあげたカボチャのようなもんがでた。 とてもおいしかった。 私は「カジョーラン」を連発し食べまくった。(とてもおいしいという意味)
アジャン宅にはURAIというとても可愛いい女の子がいて、一目で好きになってしまった。
あまり何度も言うもんだから、メンバーから「ロリコンか?」とバカにされたが、男2人の親になったらわかるわい!と言い返したもんだ。
ミーティングのあと、家にもどるとみんなはもう寝ていた。 私はその前に今日出来上ったばかりの新しいジャバン(便所)へ行き 満天の星を見上げながらウンコをした。 もちろんケツを蚊に食われながらである。

8/22 (水) 「車が来ない。」

今日が明日、伐採現場へ行く予定であるが肝心の車が来ない。 とにかくこの村では予定は予定で、はっきりしていない。 いいのか、悪いのか――。
午後2時までジョク宅で待つが本日はNGのようである。 しかたなく濱口さん(ブラレ)の家へ。
ここは夫婦2人だけでウーマングループの副リーダーのオヤンの家で中はきれいにかたずけられていた。
部屋の端にボラが作られている。 2人で盗み飲み―― ウマイ! (後記:MAKEINGボラ)
あまりの暑さに「水浴びに行こう!」ということになり18日に行った森へ出発する。
農場では村人たちがヌガンに汗を流している。
私と濱口さん、笠原さんが森に向って歩き始めると 宝方さん、新作さんや子供たちがあとを追ってきたので全員で12~3名になる。 新作さん途中でリタイヤ、ひき返す。
何度かの休憩で私たちがジャコを吸っていると子供たちもジャコをくれという。 何てヤツラか?!
1時間20分ほど歩いたろうか、やっと滝に出る。 私たちはパンツ1枚、宝方さんや子供たちは服のまま水に入る。ここはさしずめ大ジャングル温泉といった感じ。
村に帰る途中、ハンティングに出かけるジョクたちと会う。 ふつうハンティングは夜通しになり、彼はその日帰ってこなかった。
ジョクたちから聞いた話だが、村一番のハンター、アジャンオヨンさんは伐採が始まるまでは1夜に4頭ものパブィ(いのしし)をしとめたこともあり、1年になおすと100頭あまりを獲っていたそうである。 その半数を売っていたが、一頭当り250~300マーレシアドルだったらしい。 森の獲物はカヤンにとっても大事な収入源だったが 今や、今回までシカ1頭、イノシシ1頭しかとれていないありさまである。
家にもどると、タランの木からとったヘアッというイモ虫のくし焼きを私に「食べろ」といったが、「明日また」といって、ラエンに断わった。

ヘアッ Hiet
火入れして焼けたタランの木のかぶの中にいる。
くしざしにして焼いて食べる。

8/23 (木) 「クルアン最後の日」

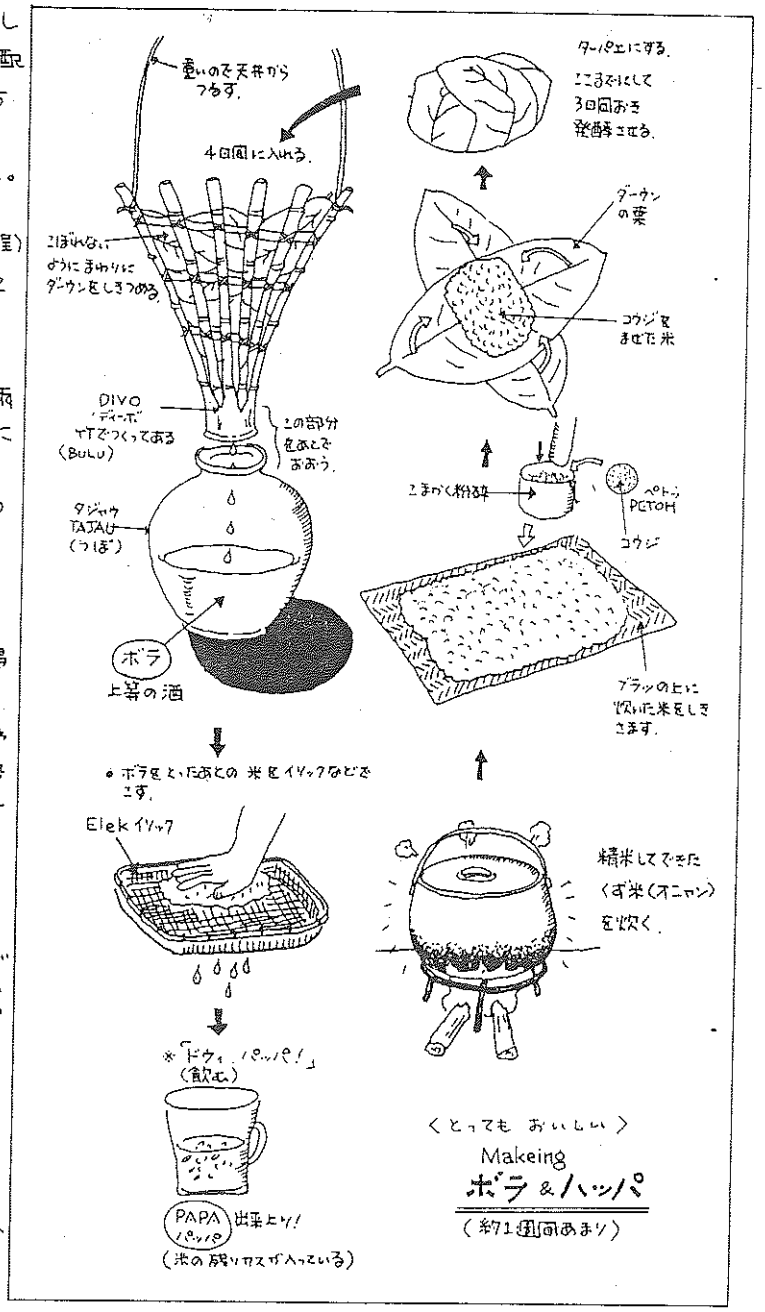
私たちの期待もむなしく、一向に車の来る気配はなく、待つ間8/15に陸稲の種をまいた畑に様子を見に行く。穴の中から、たしかに芽が出ている。(5cm程)となりにはとうもろこしが10cmくらいになっている。

あの日以来、一度も雨は降ってはいないのに朝つゆのおかげだ。これも森の恵のひとつである。

伐採現場視察に心をのこし家にもどると、ムジャン アニィ(27)夫婦が来ていた。

午后からのヌガンの為である。 えらく厳勢のいいウーマンで、ダンナはイバン族出身で、マリンガン(31)という。もう少し紹介すると、子供は10人、うち3組が双子というから驚きだ。クルアンには3人の小さな子を連れてきており、あとの2人はウマバワンスクールに通っているそうである。

子供の教育費に年間1人400Mドルかかるのでこれまた大変だ。



昼から、6人の作業が始まった。 3人がヌガン、残りの3人がナヨン、私はナヨンをした。ラハェやムジャンは見事な指さばきでナヨンをしていく。 やはり私がやると穴のまわりにモミがこぼれるばかり。

〈つづく〉

(● 8/23の途中ですが紙面の都合で以下は次号へ、最終回です。)

寄稿

ウマバワンフェスティバルに参加して

'90.10.28~29 UMA BAWANG FESTIVAL

田中 真澄
Masumi Tanaka

マレーシアサラワク州のウマバワンでの伐採道路封鎖による逮捕以来毎年行なわれている記念集会に参加したのは90年の10月のことでした。伐採反対のために闘った勇者を讃えるこの集会。年に一度のお祭りといった趣も多少ともあるものの、カヤン族出身の国会議員、ウマバワンの土地所有権のために闘っている弁護士さんなど普段ではお目にかかれない人達にも会え、又その人達からの日本人へのメッセージなどもいただきあとになって山ほど考えさせられる材料を得た体験になりました。

出合った国会議員、弁護士、伐採反対同盟のリーダーの方々から私が聞いた日本へのメッセージは一様に「伐採によって生活を破壊され、土地の権利をとり戻すために闘っている人がいることを日本の人達に伝えて欲しい。このことを知っていれば、あんなに大量の木材を買うこともないだろう。」ということでした。

では、とにかく見聞きしたことを伝えてみよう！という訳で職場の友人に解説、爆笑付きで写真を見せたり、報告会をかねた自らのピアノ弾き語りによるコンサートをやってみたりしました。……しかし……問題が解決している訳ではなく……さてどうすれば良いんだろうと、あれこれ思い悩んでしまうばかりです。

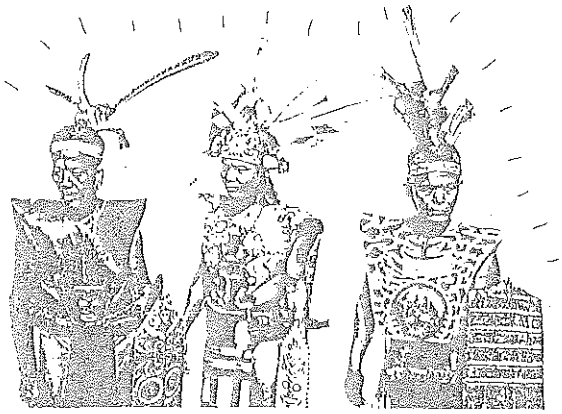
熱帯木材の輸入をやめてもらうべく政府、商社への抗議活動

―もちろん私も参加できる範囲で直接、間接的にやってみる――ずっと細細とでも持続して行きたいと思うのですが、一方でいくら抗議しても木製品の需要、つまりお箸のきれいなのが欲しい、又コンパネ再利用のために一度使用したコンパネをきれいに掃除するよりは新しいコンパネを買う方が安くてきれいだ。などという気持ちヌは欲望がある限り輸入し続けるのではないかと思います。

要するに先進国と言われる国の人々の物に対する価値基準が変わらない限り、どうにもならないのではないでしょうか。今無農薬野菜なんかが流行っていますが、もともと農薬を使わなければならなくなったのは形や色合いが整っていなければ都会の人が買ってくれないから仕方なく使うのであり、季節はずれの野菜や果物を作らなければならないのも、それを欲しがる人がいればこそだと思うのです。

木材に限らず、やはり物を大切に使うという姿勢が基本的になければ何も事は変わらないような気がします。

さて、この深刻かつ暗い内容をいかに楽しそうに伝えるか。これも大きな課題だと思います。「資源の無駄使いをなくすた



（正装したウマバワンの勇者たち）

めに、おハシを持ち歩いているの……」というよりは……「この前モロゾフのプリン買って新幹線乗ったらなんと！スプーンが入ってなかったの……。でもおハシを持ち歩いていた私はまるで茶わんむしを食べているような顔をしておハシでプリンを食べたのでした……」。と言うとかサア。ちなみにこれは実話です。

一応少し恥ずかしかったんですけどね……。

最後に昨年サラワクで見て印象に残ったことを1つ。

帰りの経由地の1つクチンで乗り継ぎまで時間があったので市内の博物館へ。全てとは言わないけれど昨日までこの目で見た村人の生活用品、用式、楽器などが同じこの時間に〝博物館〟に展示してあるなんて。不思議でした。

近代文明とは一体何なのでしょうか……と考え込みつつ、とりあえずおハシを持ち歩いている私です。

（91.3月）

三菱化成の公害輸出を問う

4.27マレーシアの叫びを聞こう！

大・阪・集・会 OSAKA

●4月27日（土）午後6時～8時半・大阪YWCA（地下鉄堺筋扇町下車5分）Tel.361-1815

●この間、ウータン紙上でも紹介しているARE事件の全国キャンペーン集会が大阪においても行われます。当日は現地マレーシアからイー・オクリンさん（「地球の友」）と被害住民代表の方が来て下さり、東京からも小島延夫弁護士がかけつけて下さいます。これらの集会は東京・岡山・北九州・水俣へと日本列島をかけめぐって日本の公害輸出の実態を訴えていきます。

ブキメラの人達の信頼にこたえて、私たちも彼らの日本でのキャンペーンが成功するように手をつなぎたいと思います。

●キャンペーンに寄せて。

原田恵子（PAG-ASA基金）Tel.06-945-9212

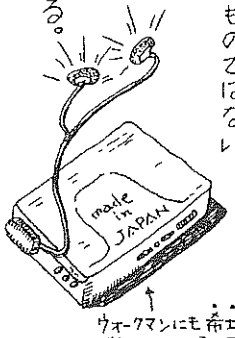
アジアをはじめとする第三世界の人々から収奪することによって日本の物質的豊かさは成り立っている。

1990年8月に、マレーシアのブキメラ村を訪れたが、日本企業の利益追求の為には、住民の健康を奪い、生活そのものを破滅に追いこむことすら平気でやってのけることに激しい怒りを覚えた。黄、緑、黒……、刻々と毒々しい色に変化する工場排水。荒涼とした暫定投棄場。放射能を防ぐ手段だとされている廃棄物を詰め込む為の大きな穴のあいた腐食したボロボロのドラム缶。放射性廃棄物による被害者や住民の怨嗟の声。

悲痛で切実な訴えを聞きながら、加害者側の国民として、このままで済ましてはなるものか。何とかしなければと胸が一杯になった。

有効な手段はないものかと模索しているとき、村田和子さん（三菱化成に働く九州の女性で内部告発をしている）がAREのキャンペーンをすることを知った。加害企業に勤務しながら良心に従って行動する勇気は並大抵のものではない。

この勇気に連帯し進出企業の在り方を問い直す事こそ人間として成すべきことだと思う。一人でも多くの人の輪で公害輸出を封じ込めていければと願っている。



ウォークマンにも希土が使われているのですヨ！

サラワク先住民の映画があった！

マレーシアの映画『ベジャライ』

「Bejarai」

（16mmカラー 99分 1987年）

スティーヴン・テオ 監督作品（中国系マレーシア人）

3月28日、大阪。枚方市民劇場主催で「ベジャライ」という映画を観てきました。

まさか、サラワク先住民を描いた映画があるとは……。

タイトルの「ベジャライ」とはイバン語で「旅に出る。」という意味だそうです。

この映画は、サラワク先住民の60%をしめるイバン族の一人の若者が村を出て街へと旅をする物語である。

彼の住む村がダム建設によって水没することになり村人たちは新たな生活をしいられることになる。

しかし、そこに待っていた現実は彼らの生活と文化をうむをいわさず壊していく。

ドラマでありながらドキュメンタリーと思える程、今の先住民のおかれている現実をていねいに映し出していました。

必見の映画です。

尚、再度大阪で上映をしようと企画中です。

詳しくは次号で……。

●映画に関する問い合せは小川プロダクション「伏屋（ふせや）さんまで」Tel. 03(3392)6331まで

（あの三重壊シリーズの）

▲映画「ベジャライ」より

会員さんからの通信欄

※紹介がたいへん遅くなり申し訳ありません。

◎富山市はどうしてもこの類の情報は不足しがちなので、とても会報などには期待しています。（富山市・北本一郎）

◎いつもありがとうございます。大阪外大で『地球環境論』という講座を数人の教員でやり始めました。是非、御協力頂ければと存じます。（大阪高槻市・深尾葉子）

◎「森の通信」を拝見する度に大阪の皆さんの活動に敬服するしだいです。名古屋では、この地で出来ることを模索している状況ですが、とにかく可能なことから始めていく予定です。（名古屋市・平井英司）

◎現在、主婦業と子育てをしていて毎日でるたくさんのゴミに、このままではイケナイなあと思っているところです。消費者側からは気づかない、木を奪われる人々の立場を会報で勉強させてもらおうと思います。（兵庫県石市・宮野由紀子）

◎日本企業の外国（特にアジア）での環境破壊とその環境に依存する人々の生活破壊をやめさせるよう情報交換しましょう。（マレーシアのトリウム被害の患者を支援する会・橋本杉子）

◎日本が諸外国に迷惑をかけないようがんばっていきましょう。（大阪市・向井千晃）

◎いつも小まめに通信ありがとう。努力的な動を伝わってきます。現地の孫子やODAの問題をいろいろ教えられます。この「経済大国・日本」いったいどないしたもんじゃろうか？（大阪狭山市・遠山ひろこ）

◎私選AMAZONESSもがんばっています。ゆっくり話せる機会があればいいなあと思っています。期待しています。がんばって下さい。（熱帯森林保護団体・南碩子）

◎私が始めてウータンの存在を知ったのは、2年以上も前になります。京都でのアジア市民フォーラムでした。その時は細々とやっていますとおっしゃってましたが、あれから着々と頑張っておられるので感心しています。又、何かイベントがあれば参加させていただきたく思います。（毎日新聞社記者・太田充栄）

※皆さん、どうもありがとうございました。

●追加スケジュール→ 4/19 淀屋橋付近で街頭署名、4/28(日) 京都、4/29(祝) 大阪城公園にて街頭署名活動をします。

ACTION SCHEDULE

4・19 (金) FRI
『熱帯木材不便用』に向けて自治体交渉。
●AM 10:00 大阪府と(AM 9:30 本館ロビー集合)
●PM 3:00 大阪市と(PM 2:30 市長ロビー集合)

4・21 (日) SUN.
『アースデイ・クリーン・アップ・ハイキング』
奈良 春日山ハイキングをします。
●集合 近鉄奈良駅改札口前
AM 10:00〜夕方 参加者は連絡下さい。
辻村方 Tel 06-792-5232 まで……

4・22 (月) MON
アース・デイ! m.a.n.j.i
です。

4・27 (土) SAT
『マレーシアの叫びを聞こう』
●三菱化成の公害輸出を告発する!
全国キャラバンキャンペーン集会です。
●大阪YWCA(Tel. 06(361)1815)
PM 6:00〜8:30 まで 梅田から歩いて10分。
問い合せ:原田恵子 06(945)9212(夜)

5・18 (土) SAT
『第1回。熱帯林保護ネットワーク全国会議』
●今後の全国的なネットワーク作りに向けての会議を東京で行ないます。
主催:JATAN(タイトルは仮称です。)

5・19 (日) SUN
『ウータン総会』を行ないます。
●大阪市中央青年センター
PM 1:30〜4:30(次号に詳細します)

6・23 (日) SUN

※この他、5/18の全国会議に向けて熱帯木材不便用署名活動を街頭キャンペーンをしますので参加の方は連絡を…。

PS 6月中に木材貿易現場、合板工場の見学会も予定しています。

〜ウータンからのお願い〜

●「通信」が今号(19)号より1部 200円になります。

会の運営費の不足から再生紙の便用を見合せてきたウータンですが、森林問題に取り組むグループとしてはやはり再生紙を便用しなくてはと大変おくればせながら決定しました。便用紙は表紙にガイアA(平和紙業)、本文にやまゆり(本州製紙)です。(今まで100円という低価格でしたが印刷代、紙代の関係で一部200円とさせていただきます。価格だれにならないよう、その分内容充実していく決意でがんばりますのでよろしく!

●『活動資金カンパ』をお願いします!

ウータンでは今いろいろな企画をたてています。資料作成、ビデオ、写真パネル、Tシャツなどの物品制作や貸出しなどですが、そのどれをとってみても資金が不足しているのが現状です。熱帯林問題を大きく広げていくのに効果があるものですのでどうか、少しでもカンパをお願いします。(企画用カンパと書いて下さい)

Cut: Shimomaiya

HUTAN 編集後記

●予定より1ヶ月近く発行がおくれてしまい本当に申し訳ありません。いつものことと思えど責任を感じております。さて先日、サラワクの先住民イバンを描いた映画「ベジャライ」を観ました。現在の先住民の問題を的確にとらえた映画でした。大阪でもう一度上映会をできればと考えています。おたのしみに……

(N)

お貸し出す!販売も

●学習会などに。

VTR『先住民カヤン・ウマバワ村を訪れて』
'90 8/15〜24(焼畑と村の生活を紹介)
56分 音楽入です。

VTR『TVニュースからのピックアップ』縦
ヘザースクープなどから?

スライド「ウマバワン村の生活縦」説明書付
100枚 カラー '90 8/15〜24

※送料など問い合わせて下さい。永田まで 0720(81)4939

《ウータン定例会議》は毎月第2・第4火曜日 PM 7:00より 連合事務所にて行なっています。(地下鉄谷町線中崎町下車すぐ)

Printed on recycled paper